

# 実践事例に見る交通環境学習 (モビリティ・マネジメント教育)の新たな展開

交通エコロジー・モビリティ財団 岡本英晃

## 1. 交通エコロジー・モビリティ財団の交通環境学習にかかわる活動

学校教育における交通環境学習(モビリティ・マネジメント教育)の普及促進を行い、環境負荷に配慮した交通行動の推進に結びつけることを目的として、活動を実施。具体的には、交通環境学習の指針となる「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」(教育宣言)や、交通環境学習の概要や実践方法、教材、実践例などをとりまとめた手引書「モビリティ・マネジメント教育」、ポータルサイトの開設といった**普及ツールの作成**。全国普及に向けた継続的に実施される拠点づくりを目的とした**自治体支援**。実施校の拡大と新たな教材開発を目的とした**学校支援**を展開。

本発表では、自治体と学校の支援先での取組みを紹介する。

## 2. 自治体支援

自治体に対して、交通環境学習に関するノウハウの提供や資金面での支援を行い、継続的に実施される拠点づくりを目的として実施。これまでに、大阪府和泉市(14~17年度)、石川県金沢市(19~21年度)、岐阜県御嵩町(20年度~)、宮城県仙台市(22年度~)、京都府(23年度~)に対して支援。

### (1) 岐阜県御嵩町

くらしと密接に関連する公共交通などを中心とした交通学習や、地球温暖化防止に向けた環境学習、歴史や文化など郷土学習を相互に関連させた御嵩町独自の交通・環境学習を推進。

1年生から6年生までの6年間を通じた学習プログラムを各小学校で検討して実施。

#### 上之郷小学校でのカリキュラム

	教科・単元	ねらい
1年	生活科:しぜんとあそぼう	体全体で自然を感じる。
2年	生活科:わたしたちの町をたんけんしよう	交通空間を“歩く”こと“発見する”価値を実感し、地域の良さを身につける。
3年	社会科:わたしたちのまちみんなのまち	広見線とバスを使って見学し、町のガイドマップをつくり、伝える力を身につける。
4年	総合的な学習の時間・社会科:わたしたちのできるエコ	地球温暖化を学び、CO <sub>2</sub> を削減するために自分ができることを考え、実践する。
5年	社会科:自動車工場	環境にやさしい自動車の開発の工夫や努力を理解するとともに、これからのクルマ社会を考える。
6年	社会科:私たちの名鉄広見線	広見線の歴史と現状を学び、広見線存続の願いを理解する。

わたしたちの町をたんけんしよう



自動車工場(排ガス調べ)

### (2) 宮城県仙台市

公共交通と環境教育が連携して小学校教育の一環として実施できる枠組みを構築していくことを目的として実施。小学生の6年間を通じて、「公共交通を交通手段の一つとして考えられる」ようになる児童を育てる事を目標として、22年度に2校で試行。



	低学年	中学年	高学年
学習目的	公共交通を身近に感じる 公共交通に親しみながら、公共交通に乗れるようになる	公共交通で お出かけができる 公共交通を使い、目的の場所まで行けるようになる	公共交通を賢く使える ケースに合わせ、交通手段を賢く選択できるようになる
学習内容	・色々な交通手段を知る ・公共交通を知る ・バスの乗り方、降り方を学ぶ ・バスについての知識を知る ・公共交通マナーを知る	・公共交通でのお出かけ ・目的地までの行き方を調べる ・時刻、運賃等を調べる ・実践する ・公共交通とまちづくりの関係を知る	・色々な交通手段のそれぞれの長所、短所を知る ◇環境面 ◇経費面 ◇時間面 ◇健康面 ◇安全面 等 ・公共交通の役割を知る ・交通手段の選び方を考える

各学年の学習目的と学習内容

## 3. 学校支援

交通環境学習の実施に意欲的な学校や教員への支援を行い、実施校の拡大を図るとともに、新たな教材やカリキュラムの開発を目的として実施。

平成22年度は5校を支援し、政治や観光、防災などと関連づけて実践され、教材やカリキュラムが開発された。

学校名	草加市立川柳小学校	泉津市立上條小学校	琉球大学教育学部附属小学校	静岡大学教育学部附属浜松小学校	大阪教育大学附属池田小学校
テーマ	多様な立場に立った交通まちづくりを考える授業を目指して(政治)	地球温暖化防止(環境問題)	めんそーれ沖縄県私たちの県のおよ(観光)	よりよいバス交通の在り方を考え、提案するまちづくり学習(政治)	安全の視点を育む交通環境教育(防災)
教科	社会科	国語科 社会科 総合学習	社会科 総合学習	社会科 総合学習	社会科 安全科
時数	8時間	18時間	33時間	15時間	5時間
学年	6年生	5年生	4年生	3年生	3年生